

医学教育に貢献する IORRA 調査

IORRA 調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

2019年5月から、前任の山中 寿先生に代わって、東京女子医科大学膠原病リウマチ内科学講座の教授・講座主任を務めております針谷と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回のIORRAニュースでは、IORRA 調査が東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センターのリウマチ診療の向上のみならず、医学教育にも活用されていることをご紹介します。医学教育には大きく分けて、医学部生に対する卒前教育と医師免許取得後の若手医師に対する卒後教育の二つがあります。本学をはじめとする医学部を有する大学はこの両者を実施し、明日の医療の担い手を育成しています。

東京女子医科大学では医学部3年生が各講座で研究を行い、その成果を発表する「研究プロジェクト」と呼ばれている教育プログラムを実施しています。現在、医学部4年生に在籍する林 ^{まゆこ} 繭子さんは3年生時の研究プロジェクトとして、IORRA 調査で蓄積されたデータを用いて、歯周病が関節リウマチ患者さんの疾患活動性、身体機能（何ができるか、出来ないかを点数化したデータ）、安全性（感染症）に与える影響を検討しました。そしてその結果を2019年6月12日欧州リウマチ学会（スペイン、マドリッド）にて口頭発表し、学会ニューズレターに「歯周病予防が関節リウマチの予後を改善するかもしれない」という見出しで大きく取り上げられました（写真右が林さん、左が研究を直接指導した酒井特任助教）。

Preventing periodontitis may improve RA outcomes

Oral care is important for patients with rheumatoid arthritis because it appears to improve disease outcomes in clinical settings, according to Dr. Ryoko Sakai of Tokyo Women's Medical University.

Although previous reports have shown an association between rheumatoid arthritis and periodontitis, these data have been from studies with smaller populations and have yielded inconsistent results, the researchers said.

"A study using a large cohort database is warranted to clarify the clinical importance of periodontitis as a comorbidity in patients with rheumatoid arthritis," Dr. Sakai explained in an interview. "It has been reported that periodontitis is one of the risk factors for the occurrence of RA. However, associations between the presence of periodontitis and RA clinical course, such as disease activity, physical function, and safety, are not clear to date due to a small number of patients in previous studies."



Dr. Ryoko Sakai (left) and Mayuko Hayashi

Abstract session

When rheumatoid arthritis (RA) does not walk alone: New data on comorbidities in RA
Wednesday, 16:15 – 17:45
N107/N108

periodontitis. The researchers also assessed the number of infections requiring hospitalisation or hospital visits in each group.

"Oral management is important for the better outcomes of patients with RA in clinical settings. RA patients with periodontitis had higher disease activity and poorer physical function than those without," Dr. Sakai said. "With regard to safety, periodontitis was significantly associated with the occurrence of infection."

Specifically, the 925 patients with periodontitis were older at baseline than the 2,538 patients without periodontitis, and patients with periodontitis had significantly higher DAS28 and J-HAQ scores at 6 months. The rate of infection was 5.8% among patients with periodontitis and 3.4% in patients without it ($P = .002$), and the adjusted odds ratio for infection in patients with periodontitis was significantly higher (OR, 1.72; 95% confidence interval, 1.10-2.69).

林さんは今回の研究について、「最初は関節リウマチについても歯周病についてもほとんど知識が無い状態からのスタートでしたが、1年以上かけてそれぞれの疾患や疫学、医療統計について講座の先生方に大変丁寧にご指導いただき、国際学会にて発表をすることができました。IORRAを用いて、歯周病と関節リウマチの治療経過について大規模な疫学研究を実施し、さらにその結果が国際学会で注目された経験は今後の医師としてのキャリアを考える上でとても価値ある経験となりました。歯周病の有病率は日本人の35歳以上では80%以上です。このような身近な疾患と関節リウマチとの関連を明らかにすることでリウマチ患者さんのより良い治療に生かせるよう、更に研究を深めていける機会があればと思います」と話しています。このように皆様からいただいた貴重なデータは、明日の医療を担う人材の育成にも大きく貢献しています。

若手医師に対する卒後教育では、科学的な思考力を身に付けるために臨床医学研究、基礎医学研究を行うことを奨励しています。私たちはこれまでにIORRA調査で得られたデータを用いて、149本もの論文を発表して参りました。その多くは、当センターの若手・中堅医師による研究成果です。

当センターでは人材育成を最重要課題に掲げて活動しています。皆様により良い関節リウマチ診療を提供させていただけるよう全力を尽くして参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(東京女子医科大学膠原病リウマチ内科学講座教授・講座主任 針谷正祥)

関節リウマチ患者さんにおける歯周病

●歯周病と関節リウマチ

関節リウマチ患者さんにおける歯周病の合併率は、一般集団より高いことが、欧米の検討から明らかになっています。また、関節リウマチ患者さんの約8割は、抗シトルリン化蛋白抗体（抗CCP抗体）が検出されます。さまざまな研究結果から、抗CCP抗体と歯周病の間には、密接な関連性があることがわかってきました。以前私たちは、40%の関節リウマチ患者は半年間に歯科治療を受けていることを報告し、その原因の一つは歯周病であると予想しました。

●IORRA 歯周病調査の結果

第33回IORRA患者調査（2016年）にて、歯周病について調査させていただきました。回答された患者さんは、5,359例でした。これほど大規模に関節リウマチにおける歯周病を調査した研究はなく、大変貴重な結果が得られました。

1) 歯みがき時の歯肉出血と歯周病診断

6か月の間に、31%の患者さんが歯みがき時に歯肉出血を経験し、18%の患者さんが歯科で歯周病と診断されていました。また、20%の患者さんは過去に歯科で歯周病と診断されていました(図)。今回の検討は、全員が歯科に受診した結果ではないため、歯周病があっても歯科に受診していない場合も含んでいます。そのため、歯周病と診断される関節リウマチの患者さんは、もっと多いことが予想されました。

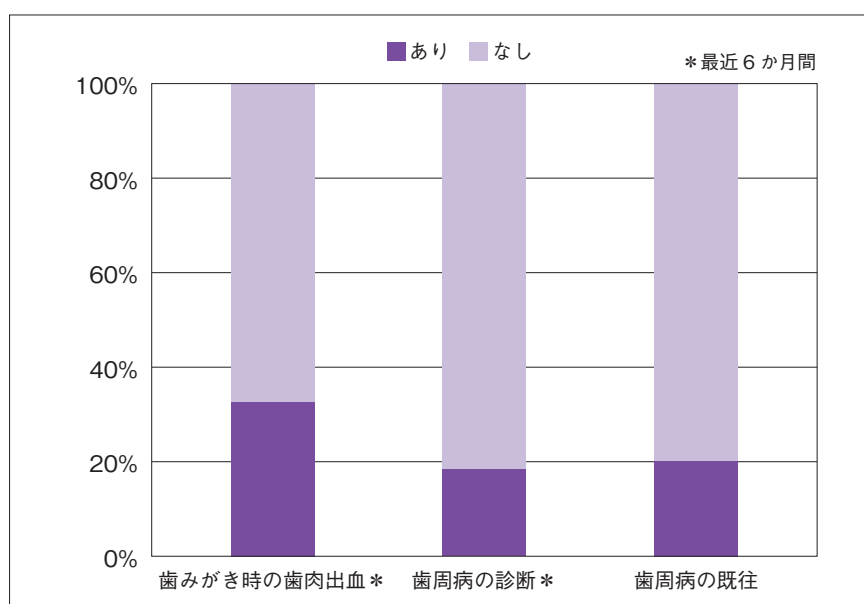


図 関節リウマチ患者さんにおける歯周病の割合

2) 歯肉出血の関連因子

歯みがき時の歯肉出血には、「年齢がより若いこと」、「骨折の既往歴があること」、「身体機能障害がより進行していること」、「ステロイド薬を使用していないこと」が有意に関連していました。この理由として、関節リウマチを発症して早い時期の方が歯周病は重症である可能性があること、高齢化に伴い歯肉が退化して出血が減る可能性があること、歯周病と骨粗鬆症には関連があること、身体機能障害があると歯みがきが十分できないことなどが考えられました。

3) 歯周病診断の関連因子

歯周病診断には、「高年齢であること」、「女性であること」、「喫煙歴があること」が有意に関連していました。一般に歯周病の罹患率は高齢者ほど高いことや、多くの疫学研究で明らかになっているように喫煙は歯周病と関連していることなどが原因として考えられました。

今回の検討から多くの関節リウマチ患者さんは、歯みがき時の歯肉出血を経験し、歯科で歯周病と診断されており、その歯周病には年齢がより高齢であること、女性、喫煙歴、骨粗鬆症、身体機能障害の進行などが関連していることが示唆されました。この結果は日本リウマチ学会の学会誌である、Modern Rheumatology に掲載されましたので、全国のリウマチ診療の現場で歯周病への対策が進むことを期待しています。毎日の歯みがきと定期的な歯科受診は、自分の歯を守るために大変重要です。これからも口腔ケアを積極的に行っていきましょう。歯周病調査にご協力いただき、本当にありがとうございました。

ここから英文抄録が読めます。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/31116056>

●フレイル調査のお願い

これまでのIORRA調査を用いた検討から、関節リウマチ患者さんの骨折は転倒後が多く、年齢に伴って筋力や心身の活力が低下した病態である「フレイル」の関与が考えられました。そこで、フレイルの頻度や関連因子を明らかにしたいと考え、今回の調査でご質問させていただきました。是非ご協力いただけますと幸いです。

(古谷武文)



皆さまの状態が少しでも良くなりますよう、私ども職員一同も力を尽くす所存です。

東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センターでは、IORRAで皆さまからいただいた調査結果を、日本の、世界のリウマチ患者さんがよりよい医療を受けられるための資料にしようと考えております。今後とも引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。

IORRA委員会

東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター
ホームページ <http://www.twmu.ac.jp/IOR> 上で
過去のIORRAニュースをご覧ください。
いつでもアクセスしてください。